

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業研究費

事業名 中山間農業研究所県単試験調査費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 中山間農業研究所 電話番号：0577-73-2029

E-mail：c 24402@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,242 千円 (前年度予算額： 7,675 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,675	0	0	0	1,180	0	3,529	0	2,966
要求額	7,242	0	0	0	1,463	0	3,110	0	2,669
決定額	7,242	0	0	0	1,463	0	3,110	0	2,669

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

県民の生命と健康を守り、環境保全に貢献する魅力ある産業として、中山間地農業を維持・発展させるため、生産現場から寄せられる短期的あるいは緊急的なニーズに的確に応えた研究開発を行う。

(2) 事業内容

(継続して取り組む研究課題)

- ① 水稻の多様なニーズに応えるオリジナル新品種の育成
- ② モモ、リンゴ等の生産安定技術開発と品種選定
- ③ クリ産地維持・拡大に向けた新品種育成および安定生産技術の開発 (一部外資)
- ④ 中山間地域における果菜類の安定生産・コスト低減技術の開発
- ⑤ 多様なニーズに応える中山間地の花き育種と栽培技術の開発

(新規に取り組む研究課題)

- ① 夏ホウレンソウ栽培に対応した土壌還元消毒技術の確立
- ② 斑点米カメムシ類に対する生物農薬の開発 (外資)
- ③ バイオスティミュラント資材および免疫活性化資材の高度な活用技術の開発 (外資)

(3) 県負担・補助率の考え方
なし

(4) 類似事業の有無
なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	666	現地調査、研究に関する協議等
需用費	4,730	栽培資材、調査器具、資材等消耗品の購入、農機具燃料費等
役務費	230	電話代等の通信運搬費及び検査手数料等
委託料	200	資材の散布機器改良に関する業務委託料
使用料及び賃借料	225	機械の借り上げ料等
備品購入費	1,000	機械器具の購入
負担金、補助金等	191	専門学会への参加費等
合計	7,242	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）では4つの基本方針「新たな担い手の確保」、「潜在力をフル活用した生産強化」、「新たな流通ルートの開拓、販路拡大」、「安心できる農畜水産業と農村の環境整備」を定めている。これに基づき研究開発・地域支援を実施する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

本県中山間地農業の生産現場において解決すべき問題のうち、主として短期的あるいは緊急的に解決すべき課題について研究を行い、成果を迅速に普及することで中山間地農業の生産性、ブランド力等の向上を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①技術移転の推進	—	8	9	8	8	100%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	作物、野菜、花き、果樹分野の継続5課題に加え、新規に作物分野で1課題、果樹分野で2課題の研究開発に取り組んだ。その中で得られた成果を研究所ニュース、中間・成果検討会、現地の研修会等で情報発信した。また、新たに開発した6つの技術（品種）について技術移転した。 指標① 目標：8 実績：8 達成率：100 %
令和5年度	作物、野菜、花き、果樹分野の継続4課題に加え、新規に野菜分野で1課題に取り組んだ。その中で得られた成果を研究所ニュース、中間・成果検討会、現地の研修会等で情報発信した。また技術普及カードとして5件を公表し、技術移転を図った。 指標① 目標：9 実績：9 達成率：100 %
令和6年度	作物、野菜、花き、果樹分野の継続6課題に加え、新規に野菜分野で1課題、果樹分野1課題で取り組んだ。その中で得られた成果を研究所ニュース、中間・成果検討会、現地の研修会等で情報発信した。また技術普及カードとして6件を公表し、技術移転を図った。 指標① 目標：8 実績：8 達成率：100 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 3	産地間競争の激化、諸資材の高騰など、産地を取り巻く情勢が厳しさを増す中で、地域（農業生産現場）に密着した問題解決型の研究は年々必要性が高まっている。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	目標通りの研究課題に取り組み、6つの技術移転を行い期待以上の成果を挙げられた。
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 1	限られた人員、予算の中、目標どおりの成果が得られるよう職員間で協力を分担し実施するとともに、関係機関、現地生産者と連携し現地試験を行い効率的な研究推進に努めている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 現場で使える成果を上げるためには、現場ニーズを的確にとらえ課題化し、明確な研究計画のもと継続して実施していく必要がある。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 中山間地域の農業現場は、気候変動、経済情勢等の影響から様々な課題が発生し、その情報収集と迅速な対応が求められている。このため、農業者、指導機関、行政との連携を密にし情報共有を図るとともに、研究課題として積極的に取り組み、得られた成果は迅速な技術移転に努めていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	